

子どもの貧困対策 古本募金で後押し

東濃信金9支店に回収箱

東濃信用金庫は、子どもの貧困対策を後押ししようと、21日まで岐阜、愛知県内の九つの支店で古本の寄贈を募っている。古本業者に買い取ってもらった全額を、こども家庭庁などが設けている基金に寄付。学習機会や衣食住が十分でない子を支援するNPOなどの活動に活用される。

信金中央金庫が協力する「こどものみらい古本募金」の運動に参加。寄贈は、笠原(多治見市)、下恵土(可児市)、那加(各務原市)、

古井(美濃加茂市)、泉(土岐市)、中津川(中津川市)の県内6支店と、愛知県の名古屋(名古屋市中)、勝川(春日井市)、犬山(犬山市)の3支店に置いた回収ボックスに寄せてもらう。募るのは、出版から10年未満の保存状態の良い本で、個人出版や雑誌類、コミック、百科事典などは対象外。買い取り額は「こどもの未来応援基金」に寄付する。

東濃信金営業統括課の三宅晋平専任役は「子どもの



古本の寄贈を呼びかける職員。九つの支店に回収ボックスを設置している＝多治見市等原町、東濃信用金庫笠原支店

支援につながるので、読み終わった本があれば、協力をお願いしたい」と話す。

問い合わせは同課、フリーダイヤル(0120)330111。(小森直人)